

強者の戦略

《シリーズ》もしもセンターの問題が東大

仕様で出題されたら (6)

【解答】

- 問1 **B**地域はサケなどの漁労を生業の基盤として、木造の住居で生活していたが、**C**地域は半地下式の竪穴住居に定住し、小規模な農耕と野生植物の採集を行いながら、野牛などを狩猟していた。(86字)
- 問2 地下水のセンターピボット灌漑により、飼料作物であるトウモロコシが生産できるようになり、フィードロットが増加したため。(58字)
- 問3 戦後の郊外化に伴って活力を失ってしまったインナーシティに、低賃金の労働者が大量に流入してきたことから衣料縫製作業が盛んとなり、フアッション地区として活気を取り戻している。(85字)
- 問4 NAFTAの発足により、メキシコの安い労働力を大量に利用した生産が可能となり、繊維などの工場をメキシコに移したため。(56字)
- 問5 北東部の人口が南部のサンベルトに移住し加齢が進んだことと、高齢者自身もフロリダ州やカリフォルニア州に移住したため。(57字)

【解説】

みなさん、こんにちは。地理の南です。夏もそろそろ終わりに近づいてきましたね。7月頃が懐かしくさえ思えます。もし今、高校野球を見たりして集中をわいてしまっている人がいたら、もう一度気合いを入れ直してください。8月の残りの2週間だけでも必死で勉強すれば何とかできます。一番良くないのは、だらだらしたまま9月を迎えて、そのまま浪人生活へ直行という流れです。いま、何のために勉強しているのかを考えてください。高3の夏だから…、みんながやっているから…という理由で勉強するのではなく、目指す大学へ受かるために勉強しているはずです。そのことを忘れないでください。

それでは問題の解説に入りましょう！

- 問1 **B**地域では北東太平洋海域でのニシン漁、**フ**

レーザー川やコロンビア川周辺でのサケ漁が営まれ、タイガ地帯の豊富な針葉樹林を利用して木造の建築物が多く見られます。一方の**C**地域では、草原地帯において半地下式の竪穴住居に定住し、小規模な農耕と野生植物の採集を行いながら、野牛(バイソン)などを狩猟していました。このバイソンが生活している地帯にはプレーリードッグも生活しています。プレーリードッグは穴を掘りながら生活している動物で、穴を掘った近辺は土が掘り返されて草地が見えなくなるところがあります。この穴付近の土まみれのところにバイソンが体を寝転がりながらこすりつけて、体にまとわりつくいろんな虫を追い払おうとする姿はかなりラブリーです。

- 問2 1980年代以降の大規模灌漑農業の進展に伴って、新しいトウモロコシ生産地域が形成されました。テキサス州北部からカンザス州西部、ネブラスカ州にいたるハイプレーンズと呼ばれる乾燥した草原では、**地下深くに存在するオガララ帯水層の地下水を揚水し、大規模なセンターピボット灌漑装置を稼働させて、灌漑農業が発展しました。**その結果、緩やかに起伏した草原は、整然とした円形景観によって特徴付けられる集約的農業地域に変化しました。ここに大規模に植えられるようになったのがトウモロコシです。トウモロコシ自体は生育にある程度降水量が必要ですが、天気に頼らなくても地下水に頼れば、トウモロコシを栽培できるようになったのです。半乾燥の草原に新しいコーンベルトが誕生したようなものです。その結果、ウシの肥育地帯はコーンベルトからグレートプレーンズへと移動し、大規模牛肉生産地域が形成されました。グレートプレーンズでウシの肥育が盛んになると、大規模食肉工場が集積して、真空パックの箱詰め冷凍牛肉を出荷するようになりました。特にカンザス州南西部には、1980年代から1990年代にかけて5つの大規模食肉工場が集積して1日のウシ屠殺数は2万頭あまりに達し、

強者の戦略

新しい牛肉生産地域の中核となりました。

ちょっと話はずれますが、酪農の話もしておきます。グレートプレーンズにはメガデアリーと呼ばれる大規模酪農が成立しました。豊富な地下水を利用してアルファルファが栽培され、それを飼料にして乳牛が飼育されます。酪農経営は大規模で、酪農場での搾乳規模は数千頭に及びます。事業を拡大するために、手狭になったカリフォルニアから移転した業者もいます。もともと牛乳は腐りやすいため、酪農地帯は都市に近接して形成され、新鮮な牛乳が都市住民に供給されてきました。しかし、道路の整備と保冷技術の発達によって、今では牛乳の長距離輸送が可能です。消費市場から遠く離れたグレートプレーンズは新しい牛乳生産地域として発展を始めています。

問3 アメリカ合衆国の都市では、一般に都心部とその周辺地区が衰退しています。この国第2の大都市であるロサンゼルスも例外ではありません。第二次世界大戦後、ロサンゼルスコミュニティ再開発局が中心となって、再開発事業が計画・実施されてきました。市役所の西に隣接するバンカーヒルは、近代的な業務・文化・住宅施設を備えた地区に生まれ変わりました。また、市役所の東側のリトルトーキョーでも、再開発と歴史的建造物の保存が実施されてきました。

これらの都心部の南に位置する地区は、近年、ファッション地区として活気を取り戻しています。もともとこの地区は、**第二次世界大戦前には鉄道関連施設、倉庫・流通関連施設、工場、青果物卸売市場などが集積して重要な役割を演じてきましたが、戦後の郊外化の進展に伴って活力を失ってしまいました。**ところが近年では、**移民の増加を背景として、豊富な低賃金労働力を利用した衣料縫製産業の成長がめざましくなりました。**自らのブランドを掲げた小規模なファッションビルに姿を変え、メキシコ系などのヒスパニック労働者がミシンに向かって縫製作業に当たっています。

ファッション地区はロサンゼルス中心部の新しい顔になりつつあるようです。

問4 南部の工業を変化させた要因としては、1994年に発効した**北米自由貿易協定(NAFTA)**があります。**この協定によってメキシコの安い労働力を大量に利用した生産が可能となり、繊維・織物、衣料製造は生産部門をメキシコに移して、南部の工場を閉鎖するようになりました。**その結果、1996～2006年にかけてノースカロライナ州では製造業の仕事が35%も減少しました。また、同じ時期に他の南部10州も製造業就業者数が20%以上も減少しました。これは、**メキシコだけではなく、他の中南米諸国へのアメリカ合衆国からの企業投資と、そこでの安い労働力を利用した生産の増加によって、南部の製造業就業者数が減少した**ことを意味します。サンベルト現象が顕著であった1970年代と1980年代に南部の比較優位性として工場を誘引した安い労働力は、海外の安い労働力とは競争できず、労働集約的工業は海外で生産活動を行うようになりました。その結果、かつてサンベルト現象として経済発展が約束されたような南部ではありましたが、現在も経済発展が継続しているのは大西洋南部沿岸の州であり、南中部東部や南中部西部では停滞しています。

問5 問題に載っていた図を見れば、人口の年齢構造の変化は、アメリカ合衆国の国内でも地域的な差異を伴いながら進行しています。分布に注目すると、1920年には五大湖周辺の諸州およびカリフォルニア州に多くなっています。その後、各州において高齢人口は増加しますが、**特にフロリダ州やテキサス州、カリフォルニア州で大幅に増加した**ため、1960年には中西部と北東部のシェアは低下し、南部・西部のシェアが上昇しました。このような、**北東部および中西部の相対的な減少と南部・西部の増大という変化は、サンベルトの成長を反映したアメリカ合衆国全体の人口分布変化と一致した傾向**ですが、さらに**高齢者自身の居住**

強者の戦略

地移動によって、フロリダ州やカリフォルニア州をはじめとするサンベルト地域に多くの高齢者が流入したことも重要な要因です。

高齢者は、冬の寒さが厳しく降雪もある北部に比べて、温暖な気候である南部に移動しています。南部の州の中には高齢者の購買行動などによる地域経済への効果を見込んで、高齢者の流入を積極的に受け入れようとする州もあります。そのような州では、高齢者の所得にかかる税金を徴収しないなどの優遇策をとっており、高齢者を引きつける要因となっています。

ここまで読んでくださった方、お疲れ様でした。次回はどのような問題になるかわかりませんが、またお会いしましょう！